問題1

Aの図を見て、空欄の字を埋めてみよう。

小袖雛形本とは、江戸時代の小袖（現在の「きもの」のもとになった衣服）の図案集です。当時の人が「ファッションブック」として眺めて楽しんだり、小袖を作る際に図案製作の参考にしたりしました。

ぢ＊白＊

①

②

のも＊や＊う

ヒント ②には漢字が一文字入っているよ！

A

＊ぢ…小袖の地色。「ぢ」の次には色名が書かれ、この小袖の下地を何色に染めるのかを指示している。「地」と漢字で書かれることもある。
＊白…この小袖は二色の染め分けとなっており、そのうちの一色は白が指定されている。
＊の…もとの字は「能」。（現代の「の」は「乃」）。
＊もやう…「模様」のこと。

問題2

Bの図を見て、空欄の字を埋めてみよう。

ぢ＊

③

④

のも＊や＊う

ヒント ④には漢字が一文字入っているよ！

B

＊ぢ…問題1に同じ。
＊の…問題1に同じ。
＊もやう…問題1に同じ。

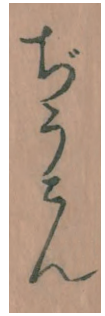
年　組　番
名前

点

問題3

Aの図を見て、空欄の字を埋めてみよう。

小袖雛形本とは、江戸時代の小袖（現在の「きもの」のもとになった衣服）の図案集です。当時の人が「ファッションブック」として眺めて楽しんだり、小袖を作る際に図案製作の参考にしたりしました。



ぢ*

①

②

のもや*

ヒント ②には漢字が三文字入っているよ！

C

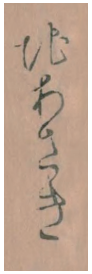
＊ぢ…小袖の地色。「ぢ」の次には色名が書かれ、この小袖の下地を何色に染めるのかを指示している。「地」と漢字で書かれることもある。
＊の…もとの字は「能」。（現代の「の」は「乃」）。
＊もやう…「模様」のこと。

問題4

Bの図を見て、空欄の字を埋めてみよう。

地*

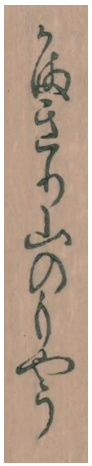
③



④

のもや*

ヒント ④には漢字が一文字入っているよ！



D

＊地…問題3に同じ。
＊の…問題3に同じ。
＊もやう…問題3に同じ。

年　組　番
名前

点

解答

問題1：①「あさき（安左幾）」
②「なすのよ（奈寸能与）一」
問題2：①「みるちや（美留知也）」
②「たつた（堂川多）川」
問題3：①「うこん（宇己先）」
②「井つゝの（川ゝ乃）文字」
問題4：①「あさき（安左幾）」
②「かまきり（可満幾利）山」

教材について

ねらい：くずし字を学びながら、当時の庶民の衣服と、生活文化や古典との関係を知る。

時間配分：トータル25分、授業時間5分（くずし字の説明）、問題を解く時間20分（問題1・2）

対象教材：国語、書写・書道、社会、家庭（被服）

問題解説

今回扱った問題は、江戸時代の小袖雛形本（こそでひながたぼん）です。小袖とは、現代の「きもの」のもととなった衣服です。その小袖の図案集である小袖雛形本は、当時の人々が、現代人がファッション誌を眺めるように楽しんだり、小袖図案製作の参考資料として活用したりした「スタイルブック」のようなものでした。一七世紀半ばから一九世紀前半の約一五〇年間に、およそ一七〇～一八〇種刊行されましたが、それぞれに意匠を凝らした小袖の雛形図が描かれており、空白欄には色や工法、また描かれた模様について書かれたものもあります。今回は、寛文（かんぶん）七年（一六六七）に刊行された『新撰御（しんせんお）ひいながた』から、小袖図右下に地色、左下に模様について書かれたものを問題として選びました。

発展学習

①地色に指定されている色について調べる。
②図案の題材について調べる。

問題1　「ぢ」とは地色を指し、この小袖は白と、①の正解**「あさき」**の二色が指定されています。くずし字では濁音が省略されることがありますが、「あさき」は「浅葱（あさぎ）」色のことです。浅葱とは、淡く緑みがかった青色で、新撰組の羽織の色として知られています。使用されている文字は、**「あ」**は**「安」**、**「さ」**は**「左」**、**「き」**は**「幾」**と、現代のひらがなと同じ漢字をもとにしており、ほぼ今の形となっているので読みやすいと思います。

②は**「なすのよ一」**が正解です。**「す」**と**「よ」**は普段使用しているひらがなと同じ**「寸」**と**「与」**がもととなっています。**「な」**も現代と同じ**「奈」**をくずしていますが、一画目から最後までがつながっているため、少しわかりづらいかもしれません。**「の」**の字母は**「能」**です（現代の字は「乃」がもとです）。全体を続けて読むと、「地白浅葱」「那須与一（なすのよいち）の模様」となります。図案と照らし合わせると、無地の部分を白、波の部分を青色系の浅葱で染めることが指示されていると思われます。那須与一は『平家物語（へいけものがたり）』にも登場する弓の名手です。この図案は、屋島（やしま）の合戦（かっせん）で、平家側が竿（さお）の先に立てた扇を射落とすように挑発したのに対し、源氏側の那須与一がそれを見事に射落とした場面を描いています。矢が当たり、はらはらと波間に落ちる扇が大胆に描かれていますね。版本（はんぽん）が普及し、この雛形本が刊行された十七世紀後半ごろには庶民の間でも『平家物語』が読まれ、この図からそれを類推することができるようになっていたこともわかります。

問題2　**問題1**同様、この小袖の地色は③の正解**「みるちや」**が指定されています。「みるちや」は「海松茶（みるちゃ）」色のことで、褐色がかった海藻の海松の様な色（茶色味を帯びた深緑）です。使用されている文字は、**「み」**は**「美」**、**「る」**は**「留」**、**「ち」**は**「知」**、**「や」**は**「也」**と、すべて現代のひらがなと同じ漢字をもとにしています。④は**「たつた川」**が正解です。「たつた」と二回「た」が出てきますが、それぞれ文字が違いますね。最初の**「た」**は**「堂」**、次は**「多」**をくずしたものです。現在の「た」は「太」をくずしたものですが、この「堂」「多」をくずした文字もよく使われます。**「つ」**は**「川」**をくずしたものですが、現在使用しているひらがなも、この「川」がさらに簡略化された文字となります。「たつた川」とは、紅葉の名所と知られる奈良県生駒（いこま）山地を流れる竜田川（たつたがわ）のことで、歌枕として数々の和歌に詠まれています。流水に流される紅葉の図から、庶民でも竜田川を想起することができたのでしょう。

問題3　「ぢ」とは地色を指し、この小袖の「地色」は、①の正解**「うこん」**が指定されています。「うこん」色

とは赤みのある鮮やかな黄色のことで、「鬱金」と書きます。鬱金はショウガ科の多年草で、現代でもターメリックという名でカレー粉などの色付けに使われています。使用されている文字は、「う」は「宇」、「こ」は「己」、「ん」は「先」と、現代のひらがなと同じ漢字をもとにしています。②は「井つゝの文字」が正解です。「つ」は「川」で、普段使用しているひらがなと同じ漢字がもととなっています。次の「ゝ」は、その直前の文字を繰りかえす踊り字ですので、「つ」を重ねます。「の」も現代のひらがなと同じ「乃」をくずしています。全体を続けて読むと、「地うこん」「井つゝの文字のもやう」となります。図案と照らし合わせると、小袖の中心に大きく「井筒」の文字があり、説明通り「井筒の文字の模様」となっています。では、この井筒は何を示しているのでしょう。「井筒」の文字とともに、波と紅葉が描かれています。そのことから、この図案が『伊勢物語』二三段の「風吹けば沖つ白浪たつた山夜半にや君がひとりこゆらむ」が詠まれた場面を示唆していることがわかるのではないでしょうか。版本の普及により、庶民の間でも『伊勢物語』が読まれ、経済力を持った町人が、この様な「謎解き」を小袖に表して楽しんでいたことがわかります。

問題4　**問題3**同様、この小袖の地色は③の正解「**あさき**」です。「あさき」は「浅葱」色のことで、淡く緑みがかった青色です。使用されている文字は、「あ」は「安」、「さ」は「左」、「き」は「幾」と、現代のひらがなと同じ漢字をもとにしているので、読みやすいですね。④は「かまきり山」が正解です。「き」は「幾」、「り」は「利」で現在のひらがなと同じ漢字がもとですが、「か」は「可」、「ま」は「満」と異なっています。（現在の「か」は「加」、「ま」は「末」をくずしています）。全体を続けて読むと「地あさき」「かまきり山のもやう」となります。さて、「かまきり山」とは何でしょう。図を見ると、かまきりの乗った山車が描かれているので、昆虫のカマキリで間違いないようです。山車との関係は、「蟷螂山」で調べると、それが京都の祇園祭の山車の一つであることがわかります。この様に、地方の祭りの光景なども模様として取り入れられていたことに、この時代の小袖の模様の面白さを感じてもらえるのではないでしょうか。

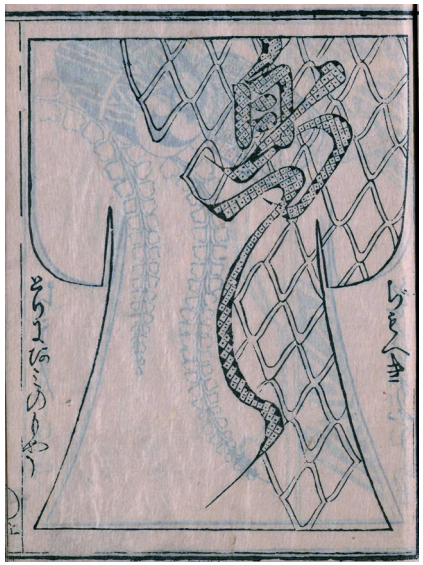
教材解説

教材は、『新撰御ひいながた』の寛文七年（一六六七）版を使用しました。（国立国会図書館蔵／DOI：10.11501/2541138 ／ https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2541138）この雛形本は、版行された小袖雛形本の中で最も古いとされる寛文六年（一六六六）刊の『新撰御ひいながた』の改訂版です。寛文六年版と七年版は、一五図の相違が見られますが、いずれの版も極めて大柄な図案が二〇〇図収められています。その題材は単に物だけでなく、歌枕、謡曲、古事伝承、風習なども多く含まれており、当時の庶民生活に浸透していた文化をうかがい知ることができます。

今回問題で取り上げた小袖図の他にも、『伊勢物語』九段「東下り」の場面を表す図（参考図1）や、漢字を使って網にかかった鳥を表した図（参考図2）など面白いものが多数あります。小袖雛形本が古典の教科書に取り上げられることはあまりないと思いますが、ファッションという身近な題材から古典への興味喚起につながる資料ではないでしょうか。

（担当：髙須奈都子）

参考図1　『伊勢物語』東下り



参考図2　鳥網